

小施策評価シート (平成 27 年度実績評価)

施策コード	3	施策名	高齢者福祉の充実	
小施策コード	3-2	小施策名	高齢者の健康・生きがい対策の充実	
小施策 主管課等コード	066500	小施策 主管課等名	長寿社会課	
評価責任者名	吉田 一彦	内線番号	3560	
評価シート作成者名	久保 隆司	内線番号	3561	

Step 1 小施策の全体像

小施策の概要等 (構成事業は別紙ロジックモデルシートのとおり)

現状と課題	健康寿命の延伸や生活の質の向上の実現に向けて、高齢者の健康づくりと生きがいづくりに対し、多様な支援が求められている。意欲や能力のある高齢者が、スポーツや学習などの機会に参加し、これまでの経験や知識を生かして地域社会に参加していくことは、生きがいを持って生活することにつながるとともに、高齢者の閉じこもり防止など、介護予防にも寄与するものである。元気な高齢者が地域において、互助・共助などの担い手として活動できるように、社会参加を促進するための方法について検討し、高齢者の社会参加を一層進める必要がある。
取組の方向性	高齢者が健康で生きがいを持ち、安心していきいきとした生活を送ることができるように、健康寿命の延伸に向けた健康づくり、スポーツや学習などの機会の設定、介護予防のための事業に取り組むほか、高齢者が自らの経験と知識を生かし、地域の人々と支え合いながら、積極的に社会に参加・貢献できる生きがいのための事業を推進する。
対象 <small>(誰(何)を対象として行うのか)</small>	市民
意図 <small>(対象をどのようにしたいのか)</small>	健康で生きがいを持って生活できる。

Step 2 成果指標の推移

(↑: 数値を上げていくことを目標とする指標, ↓: 数値を下げていくことを目標とする指標, →: 数値を維持することを目標とする指標)

指標項目	単位	25年度 実績 (現状値)	27年度 実績	31年度 目標値	36年度 目標値
A 生きがい活動をしている高齢者数 (延べ人数) (↑)	人	241,563	230,034	260,000	265,000
B シルバー人材センター登録率 (↑)	%	1.10	1.10	1.16	1.21

C 老人スポーツ大会等への参加者数 (↑)	人	6,009	5,972	6,400	6,500
--------------------------	---	-------	-------	-------	-------

Step 3 市民ニーズの把握

盛岡市高齢者保健福祉計画・第6期介護保険事業計画を策定するに当たり、平成26年6月～7月に実施した高齢者保健福祉に関する意向調査において、「自分で健康だと思うか」について尋ねたところ、高齢者の約60%が、「健康」「まあまあ健康」と、約37%が「健康でない」「あまり健康でない」という回答であった。当市の平成26年度の要介護（要支援）認定率は19.8%、要介護（要支援）になるおそれのある介護予防二次予防事業対象者の出現率は2.4%であり、健康寿命の延伸に向けた健康づくりの取組が求められていると考える。

また、この意向調査において、「趣味はあるか」と尋ねたところ、約76%の人が「はい」と回答したが、高齢者が参加している社会活動を尋ねたところ、「趣味関係のグループ」に約29%の人が、「スポーツ関係のグループ」に約20%、「老人クラブ」に約15%、「ボランティア」に約13%の人が「参加している」という回答であった。趣味やスポーツ、学習などを通じて社会参加できる機会を増やし、高齢者が、更に生きがいを持って暮らすことができる取組が求められていると考える。

Step 4 役割分担分析

1 各主体の役割の状況

		役割の内容	役割分担比率 (%)
各主体の役割の状況	市	活動拠点の整備、情報提供、市民、NPO、地域団体、企業等の協働による受け皿づくり、高齢者の自主的な社会参加、生きがいの活動の支援	40
	国・県・他自治体	高齢者の就業、健康・福祉、学習・社会参加、生活環境等、高齢者対策の枠組みづくりや対策の推進、調査研究、情報提供	5
	市民・NPO	自立を基本に、行政、地域の支援を活用しながら、支え合いや協働により、自己の適正にあった社会参加、社会貢献活動を通じて、生きがいを高め、高齢社会の一員として、いきいきした生活を送る。	50
	企業・その他	企業の社会的使命を自覚しながら、地域の一員として、それぞれの特性を生かした地域貢献、高齢者の社会参加、生きがい活動を支援する。	5

2 今後の市の役割の比重の方向性とその理由

- 市の役割の比重を拡大していくことを検討する
- 現状維持（現在の市の役割の比重を維持する）
- 市の役割の比重を縮小していくことを検討する
(理由)

高齢者自身が主体的に健康づくり、生きがいをづくりに取り組んでいくことが第一であるが、効果的な介護予防事業の提供や、元気な高齢者が地域において、生活支援の担い手として活動できるような仕組みづくりを行うことで、成果が更に向上していくものと見込まれており、市は、今後においても、現在の役割分担を維持していく必要があると考える。

Step 5 成果・問題点の把握と改革改善案

1 成果の把握と要因分析及び課題の設定

(1) 小施策の中で成果をあげた点

一次予防事業普及啓発・支援事業で実施している「はなまるシニア筋力アップ教室」は、高齢者が身近な場所で交流しながら、気軽に介護予防ができる場として、参加者が年々増加しており、平成 27 年度も 1 会場増設して実施した。

【参加人数の推移】

22 年度 98 人、23 年度 622 人、24 年度 994 人、25 年度 1,408 人、26 年度 1,513 人、27 年度 2,218 人

(2) 成果をあげた要因

教室で実施している内容は、運動機能の向上を目的とした全身ストレッチや筋力アップ体操であり、体育指導員等を講師として実施しているが、事前受付を行わないことなどもあり、高齢者が気軽に参加できる教室として定着してきている。

(3) さらなる成果向上に向けて取り組むべき課題（課題がある場合に記載）

盛岡市高齢者保健福祉計画・第 6 期介護保険事業計画において、高齢者にとって身近な施設である老人福祉センター等を中心とした公共施設において、住み慣れた地域で気軽に介護予防に参加できるような機会を提供することとしている。

はなまるシニア筋力アップ教室は、現在 4 会場で実施しているが、今後、教室の実施会場を増やしていくことで、更に成果向上が期待できる。なお、その場合には、現在は、市が直営で事業実施しているが、事業の一部委託化を検討する必要がある。

2 問題点の把握と原因分析及び課題の設定

(1) 小施策における現状の問題点

介護保険法の改正に伴い、平成 29 年度以降は、現行の二次予防事業を廃止し、高齢者が誰でも参加できる一般介護予防事業に力点を置いた取組を進めることになった。このことに伴い、「介護予防・日常生活支援総合事業」を平成 29 年 4 月に実施する必要があるが、事業の全体像の検討については、余裕のないスケジュールの中で、予算要求事務等の事業実施に向けた準備作業を進めつつ行っている状況である。

(2) 現状の問題点が生じている原因

二次予防事業の廃止に係る関係事業者、事業利用者との調整作業を行いつつ、介護予防・日常生活支援総合事業実施に向けた準備作業を進めていく必要があり、配置された職員ではマンパワー不足の状態になっている。

(3) 分析した原因を踏まえて取り組むべき課題

関係事業者などとの調整作業を急ぐこと。

3 改革改善案（上記 1 (3) 及び 2 (3) で設定した課題に対する具体の取組）

平成 29 年 4 月からの「介護予防・日常生活支援総合事業」に向けた準備作業を優先事項として、集中的に取り組む。また、同事業を検討する中で、老人福祉センターなど高齢者の身近な場所で、交流しながら気軽に参加できる介護予防事業の実施方法について、具体化する。

Step 6 小施策と構成事業の関係性

1 小施策との結び付きが弱い、もしくは他の事業と重複していると考えられる事業

小施策との結びつきが弱い事業や実施内容が重複している事業はないが、「一次予防事業普及啓発・支援事業」「介護教室・医療講座開催事業」「いきいき健康回復教室事業」については、28 年度中に、事業の整理を行う必要がある。

2 1 で記載した事業についてその理由

「介護予防・日常生活支援総合事業」における「一般介護予防事業」に位置付けて実施できる内容かどうかを精査し、事業の再編を行う必要がある。

3 1 で記載した事業の今後の方向性（案）（縮小・廃止・統廃合等）

「介護予防・日常生活支援総合事業」を検討する中で、既存事業の整理を行い、より効果的な事業の実施方法について検討する。